

令和6(2024)年度放課後活動指導者研修②実施報告

実施日：令和6(2024)年9月18日(水)

◎ 当研修は、放課後活動指導者として、地域で行う子どもたちの多様な体験活動を充実させるための知識・技能の習得を図るための研修です。第2回は総合教育センターをメイン会場、上都賀・安蘇の各庁舎をサテライト会場として実施し、合計で76名の方々に参加いただきました。

○ 講話・演習「子どもの発達に応じた大人の関わり方」

公認心理師・臨床心理士 土沢 薫 氏

土沢先生は、発達心理学、発達臨床心理学を専門とされ、近年まで宇都宮共和大学に勤務されておりました。また、保育、教育関連の心理職として宇都宮市教育センター相談員、乳幼児健診心理相談員等を歴任され、現在も栃木県内の学校においてスクールカウンセラーやスーパーバイザー等をお務めになるなど、幅広く活躍中です。

今回の講話では、はじめに現代の日本の子育て環境について説明がありました。そして現代の子育て世代は、「孤独感」や「強い不安」、「情報の氾濫とコミュニケーション不足」に悩みがちであるという現状が示されました。そのため、確かなつながり、安心感、温かな見守り、正しい情報、信頼できる援助者が必要であるというお話がありました。

次に、子どもの育ちを支えるとは、子どもが自ら前に進もうとする姿勢を育てることであり、受け入れられている安心感、当たり前前の方が当たり前前のできる小さな達成感の蓄積が、自ら前に進む姿勢が育つ条件としてあることを説明されました。放課後活動では「遊び心」がとても大切で、ゆるやかな秩序の中、安心して楽しく過ごせる場を作ってほしいという思いが受講者に伝えられました。

その後、1つしかないおもちゃを友人から横取りしてしまった子どもへの対応について、話し合いを行いました。どのような対応が適切なのか話し合うことで、よりよい対応のしかたを考えることができました。

また、放課後活動指導者が発達に課題がある子どもへの援助をする際は、子どもの発達特性に応じた援助を行い、子どもの強みを活かすことで、どんな子にとっても楽しい場を作ることができるという説明がありました。

どのお話も、放課後活動指導者にとって貴重な情報ばかりであり、今後の活動に役立つヒントをいただくことができました。



★ 受講者の声 ★

- ・ 声かけの仕方や、穏やかな対応の仕方の大切さを感じました。今後に生かせるように努力したいと思いました。穏やかな子になって欲しい時には、大人が穏やかな対応を心がけることの大切さも感じました。
- ・ 子どもたち一人一人の対応について、生まれた時からの環境が違うため難しいと思いました。自分もゆとりを持って、子どもたちの見本になれるようにしたいです。
- ・ 子どもに寄り添えるよう、自分の心にゆとりを持てるよう、いつも笑顔で過ごせるよう心がけていきたいです。
- ・ 今日学んだことを地域のボランティアの皆さんと共有して、より充実した活動が行えるように働きかけていきたいです。
- ・ 大人が子どものモデルを示していけるよう、ゆとりのある対応をしていきたいと思いました。笑顔と機嫌のよさをキープしてなどすぐに実践できることなので、日々の生活に生かしていきたいです。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで

TEL: 028-665-7206 e-mail: skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp